４－２ 産学連携による教育支援の振興及び推進

＜事業計画＞

産学連携による教育支援として、以下の 2 事業を実施する。

① 産学連携人材ニーズ交流会

学生が新しい価値の創造に立ち向かっていけるよう、日本社会全体で学びを支援する仕組みとして、共創活動の拠点をメタバース上の仮想空間に設け、SDGs(持続可能な開発目標)の解決を目指す「SDGs サイバーフォーラムコモンズ」の構想に基づくパイロットプランの実現を目指した準備について、情報専門教育分科会から報告を受け、実現可能性を確認する。

② 大学教員の企業現場研修

教員の教育力向上を支援するため、賛助会員の協力を得て、デジタル革命による事業 価値の創出に取り組む事業戦略の動向、技術革新の現場情報、人材育成の方針を紹介いただき、若手社員と大学教育に対する意見交換を行う中で、授業を振り返る気づきの機会を提供する。

＜事業の実施結果＞

産学連携推進プロジェクト委員会を継続設置し、令和 6 年(2024 年)11 月 25 日、令和 7 年(2025 年)1 月 20 日に平均 9 名が出席して、「産学連携人材ニーズ交流会」、「大学教員の企業現場研修」を開催要項の策定、運営準備等を行い実施し、第 42 回臨時総会(令和 7 年 3 月 28 日)に報告した。以下に、活動状況を報告する。

産学連携人材ニーズ交流会

（1）産学連携人材ニーズ交流会の企画

大学教職員、企業関係者の参加の利便性を考慮し、本年度もオンラインで開催することにし、以下の視点で企画を進めた。

① 開催趣旨

今回の交流会では、昨年度の交流会の結果を踏まえて、学生の新しい価値の創造に向けた学びを支援する「SDGsサイバーフォーラムコモンズ」のパイロットプラン試行実験の結果について報告するとともに、導入の可能性を確認する。

② プログラム

「情報提供1」では、情報専門教育分科会から試行実験の基本方針、大学教育での位置づけと産学連携の意義、期待される効果などを報告する。

「情報提供2」では、マッチングの状況及び試行実験の状況について、参加大学及び関係企業からの感想を紹介する。また、「SDGsサイバーフォーラムコモンズ活動に伴う心得」ビデオの紹介も行う。

③ 全体討議

本年度実施したマッチングの試行実験を踏まえて、有効性や具体化計画について意見交換を行い、理解の共有を図るとともに本協会事業終結後の可能性を探求する。

以上の方針を踏まえ、本年度の産学連携人材ニーズ交流会の開催計画を以下の通りとりまとめた。

第１５回産学連携人材ニーズ交流会開催要項

日　　時：　令和７年３月１日(土)　　9：00～11：30

配信会場：　アルカディア市ヶ谷(私学会館)　オンライン開催（Zoom 使用）

１．開催趣旨

VUCA(ブーカ)の時代と言われるように、変動が激しく不確実で、予測できない複雑な問題を抱える現代社会では、これまでの常識が通用しなくなると言われており、学生には新しい物事や変化そのものに適応する能力が求められています。AI と共存す

る中、物事の本質を捉える訓練を通じて、実践的に社会課題の解決に立ち向かい、未来を切り拓いていく世界に通用する人材の育成が要請されています。それには、大学教育での知の創造に加え、地域社会や企業の知見、現場感覚、実践体験などを取り入れた学びを通じて、地球的規模で未来を拓く価値の創造に挑戦していく新しい学びが必要になります。

そこで、本協会では、社会と大学が連携した共創活動の「場」が不可欠と判断し、仮想空間に SDGs(持続可能な開発目標)の活動拠点を設けたモデル構想を研究しています。学生が新しい価値の創造に立ち向かっていけるよう、日本社会全体で学びを支援する仕組みとして、共創活動の拠点をメタバース上の仮想空間に設け、SDGs(持続可能な開発目標)の解決を目指す「SDGs サイバーフォーラムコモンズ」の構想に基づくパイロットプランについて、情報専門教育分科会から報告を受け、実現の可能性を確認します。

２．プログラム

開会挨拶　向殿　政男　公益社団法人　私立大学情報教育協会会長

情報提供 1

（1） **SDGs サイバーフォーラムコモンズのパイロットプランについて**

大原　茂之氏（公益社団法人 私立大学情報教育協会情報専門教育分科会主査）

① 試行実験の基本方針

先行きが不透明で将来の予測が困難な時代において、日本が成長力、競争力を高めていくには大学教育だけでは限界がきている。地球的規模で新しい価値の創造に立ち向かって行けるよう、大学と社会が一体化して学びを支援していく仕組みが求められている。意欲ある学生チームによる SDGs の研究を社会とマッチングする共創活動の拠点を仮想空間に設け、「創発的な学び」を目指す。

＊創発的な学び:自由な発想やアイデアを生み出すため従来の枠組みにとらわれずに自由に考える。

② 大学教育での位置づけと産学連携の意義

対象とする学びは、意欲のある学生チームによる共同研究・創作活動やゼミナールなどのテーマ別 PBL とし、教員・社会の支援を前提にします。

答えのない SDGs の課題解決に向けて、どのように考え、どのようにアプローチしたらよいのかなど、共創活動を企業・自治体関係者(以下「企業等」)に広く知っていただき、関心を誘発してコミュニケーションする中で、未来を拓く価値の創造に挑戦していく仕組み作りを目指します。

③ 期待される効果

学生は、社会からの意見や反応を組み合わせ、創発的に問題解決する社会人力を身に付けることが期待されます。大学は、共創体験を支援することにより、学生と社会のウェルビーイングに関与し、大学価値の拡大・向上につなげることが期待されます。企業等は、学生と共に価値づくりを実現していくことで、組織の存在価値を高め、次世代人材の育成、新たな価値創出や地域創生、製品・サービスの開発などに繋げていくことが期待されます。

情報提供 2

（2） パイロットプランの試行実験について

① 準備について

学生へのメタバース利用ルールの徹底を図るため、5 分のビデオを作成してオンデマンドで配信した取組みを紹介する。ルールの徹底は、ビデオオンデマンドによる意見表明レポートを担当教員に提出させ、提出のない学生には、担当教員から個別指導を行うようにする。

＊「SDGs サイバーフォーラムコモンズ活動に伴う心得」ビデオ視聴（情報専門教育分科会作成）

② マッチングについて

仮想空間でのマッチングは、令和 6 年 10 月から令和 7 年 1 月に試行し、メタバースのプラットフォームに学生が計画している SDGs の研究内容を掲載し、企業 3 社とモバイルコンピューティング推進コンソーシアム、スキルマネジメント協会の協力を得て、研究計画の内容を双方で理解共有できるようマッチング基盤環境の試用実感を一部の参加大学の学生、企業から報告する。

＜学生チームからの感想＞

帝京大学チーム、静岡産業大学チーム

＜企業からの感想＞

(株)日立製作所、富士通 Japan(株)

＜企業団体からの感想＞

スキルマネジメント協会、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
休　憩

全体討議

（3） **SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想の有効性及び課題について**

試行実験の結果を踏まえて、メタバース上の仮想空間に共創活動の拠点を設けることの有効性及び課題などについて意見交換を行い、各大学において SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想を検討・推進するための情報提供を行う。また、マッチング後の共創活動の留意点についても紹介し、その上で、有志の大学と企業及び企業団体が連携した共創活動の状況をユーチューブで発信することを想定する。

総括

（2）産学連携人材ニーズ交流会の実施結果

大学関係者 48 大学 60 名、企業等関係者 9 社 11 名、計 71 名が参加した。以下に開催結果の概要を報告する。

第 15 回産学連携人材ニーズ交流会開催結果の概要

情報提供１

「SDGs サイバーフォーラムコモンズのパイロットプランの概要」について、情報専門教育分科会の大原主査から、日本の大学教育が世界の中で遅れている要因として、海外の人達と意見交流する環境を大学が揃えていかないと、世界と戦える人材が生まれてこない。目指すところは、答えの定まらない SDGs の課題解決に向かう学びが重要になるとして、大学を超えて文化の違う人たちと一緒に考え、共創活動で学びの質を高めていく、海外を巻き込んでアプローチしていくという学びに、企業や自治体関係者に関心を持っていただけるように、大学は努力していく必要があることを報告した。

情報提供２

パイロットプランの試行実験の詳細

① プラットフォーム(メタバース)の構築は、帝京大学学生チームの協力を得て、2Dメタバース cluster でサンプル開発を行った。

② 学生チームが発信するマッチング情報は、トレードオフの関係を心掛けることで、創発的な学びが体験できることを期待した。

③ 企業等チームにはアバターで参加し、学生チームの研究計画について、説明のインパクト性など、関係者に関心を誘発する観点から、意見をうかがうこととした。

④ プラットフォームの運営は、私情協情報専門教育分科会のメタバース・VR 教育利活用小委員会が担当した。

⑤ 今回は、学生チームと企業等チームのマッチングをするまでの環境作りの実験としたため、マッチング後の共創活動の環境は対応しなかった。

⑥ メタバース環境での利用ルールを徹底するために、活動に伴う心得を小委員会で 5 分のビデオを作成し、参加大学の担当教員の協力を得て周知することにした。

⑦ ビデオは、サイバーフォーラムでの行動規範、情報の取扱い、成果物の 3 項目を中心に注意喚起の内容とし、当日の会場でビデオを紹介した。

試行実験の感想

① 静岡産業大学チームの担当教員から、学内 LAN のセキュリティ対応が難しく、学生は自宅又は学外回線によるスマホでの参加となり、マッチングの開始時刻が遅くなり、参加企業等関係者に迷惑をかけた。

学生チームの学生からは、アバターを使うことにより顔出ししないでゲーム感覚で交流できたとの感想が報告された。

② 帝京大学チームの担当教員から、cluster の world は公開状態となるため、一般の利用者が入室することがあり、別の方法も検討する必要がある。実験当日に電車事故で大学に辿り着けない事態が発生したことで、それぞれが別の場所で cluster の world に集まることができ、メタバースの有効性を確認できた。

学生チームの学生からは、cluster を社内ネットワークで利用できない、スマホでのデザリングの通信が不安定であること、社内からのデザリングはセキュリティで問題となることが報告された。

③　株式会社日立製作所からは、学生の強い思いがチーム全体から感じられた。cluster は、社内での利用にはセキュリティやネットワークに制約がある。今回は、ポスター展示が一箇所であったため、参加者が集中した利用に留まったが、数か所の展示で同時並行のコミュニケーションが展開できれば、真価を発揮できる可能性を感じた。

④　富士通 Japan 株式会社からは、チームを組んで活動を真摯に対応していると感じた。学生が考えや課題を持ち、分担して発表するなど、チームでの取組みが良かった。SDGs のテーマは、質の高い教育にマッチしていた。また、企業のメリットとして広告対応などを事前に検討もされていた。企業のパソコンではアプリのインストールに制限があり、スマホでの対応を行ったが、数回アプリがダウンしたことから、事前に動作検証の必要性を感じた。

また、スキルマネジメント協会、モバイルコンピューティング推進コンソーシアムからも資料の通りの報告が行われた。

全体討議

「SDGs サイバーフォーラムモンズ構想の有効性及び課題』をテーマに意見交換した。

課題に対する方向性の提案

「学生チームによる研究計画の見せ方を工夫する」

企業等の関係者の興味を喚起するように解決策による影響を具体的にあげ、どのような副作用が出てくるのか、トレードオフの状況について優先順位を付けて提案する。

「有志大学と企業等によるメタバース環境構築の可能性を合意形成する」

企業の業務用 PC はソフトウエアのインストールに制限があることから、スマホやタブレットなどを活用する。個人としての参加を企業と大学間で事前に合意形成しておく。学生チーム掲示板の配置は、プラットフォーム内に複数配置し、企業等が複数の学生チームを渡り歩いて魅力を発見できるようにする。

「産学による価値創出の可能性を、どのように進めていけばよいのか」

通常大学の授業では得られない「社会知」を導入して、分野横断的な答えのない課題にチャレンジする学びの喜びを学生に体現する価値を発信できる仕組みが必要。

企業・自治体では、斬新な学生の発想からの気づきの獲得が期待できるとの提案が行われ、意見交換し、確認を行った。

「学生チームによる研究計画の見せ方を工夫する」

国際会議の形で仮想空間により行う方が企業も参加しやすいと思うとの意見があった。将来的にはその方向は考えられるが、国際会議に出るとなれば、完成を目指して相当練っておかないといけないので、創発的な学びは期待できないかも知れないなどとの意見交換を行った。その上で、研究計画の内容が新しい価値の創出に繋がるよう、他分野の学生や教員、OB を交え、多面的に検討する仕組みを学内で設ける必要性を確認した。

「有志大学と企業等によるメタバース環境構築の可能性を合意形成する」

プラットフォームを有志大学間で構築することから始める。企業内で独自のソフト、セキュリティ対策を合意しておき、大学と一緒に活動できるよう、将来に向けて検討しておくという意見があった。活動当初は、成果が見えないので、一部の関係者がメタバースに参加できるようにスマホなどを活用して、自宅から自分の端末で参加する工夫を考える。企業等・大学間で事前に個人としての参加を合意形成しておくことを確認した。

「産学による価値創出の可能性を、どのように進めていけばよいのか」

意見交流の締切がないという形で運用されると、企業や学生間での意見交流がどういうスパンで行われ、時間的なタイミングはどうなると考えているのか、という意見があった。研究の期間や研究の進め方などの情報を学生チームから提示し、それに対して企業側で共創する価値があるかどうかを判断する必要があるが、この調整を行うのが今回のマッチング実験であることの説明が事務局から行われ、確認・共有した。その上で、最初は、SDGs への対応を標榜している大企業を対象に呼びかけて、創発的な議論を積み重ね、トレードオフの観点から、解決策導入の優先順位を提示する。大学の授業で得られない社会での現場情報、物事に対する見方、考え方を取り入れることで、実践に近い思考を体験・訓練することができるという喜びを、学内外に PR することにより、大学の価値向上に大きく貢献できる。また、

予算措置という課題が出てくるので、学内で積極的に議論を進める必要性を確認した。

座長総括

試行錯誤を踏まえて、SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想の有効性の課題を整理したが、残念ながら来年度から私情協がないので、有志の大学や企業で検討を進めていただき、メタバースで学生がわくわくする主体的な学びの実現に向けて、取組んでいただくことを期待している。15 年間取り組んできた中で、オープンイノベーションに繋がる新しい学びの仕組みとして、「SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想」を立ち上げた。スタートの段階ではあるけれども、この構想をどんどん発展させていただき、大学と企業及び自治体など社会と協働して、この活動が発展していくことを期待し、「産学連携人材ニーズ交流会」の取組みを閉じた。

【全体討議の場面】

詳細は、巻末の 2024 年度事業報告書の附属明細書【2－4】を参照されたい。

大学教員の企業現場研修

大学教員の教育力向上を支援するため、情報産業における事業戦略の動向、最新の技術動向、社員教育制度の紹介、若手社員を交えた大学での学びに対する要望などの意見交換を通じて授業改善に向けた気づきを提供するため、協力企業 3 社と調整した結果、対面形式で開催することになり、3 社合わせて、56 大学 62 名が参加した。

以下に、開催内容と実施結果の概要を報告する。

令和 6 年度「大学教員の企業現場研修」開催結果の概要

1．開催趣旨

大学教員の教育力向上を支援するため、賛助会員の全面的な協力を得て、「大学教員の企業現場研修」を開催し、情報産業における事業戦略の動向、若手社員を交えた大学での学びに対する要望などの意見交換を通じて、授業改善に向けた気づきを提供する。

2．開催方法

昨年度に引き続き賛助会員企業の協力を得て各企業の現場にて対面方式で実施。

3．開催日時・参加状況

2 月 13 日（木）	株式会社内田洋行	参加者：22 大学　24 名
2 月 20 日（木）	株式会社日立製作所	参加者：12 大学　15 名
3 月　4 日（火）	富士通 Japan 株式会社	参加者：22 大学　23 名
		合計　56 大学　62 名（前年：53 大学 57 名）

4. プログラムの概要

株式会社内田洋行

（1）開催日時： 令和 7 年(2025 年)2 月 13 日(木) 13：00～16：30
（2）開催場所： 株式会社内田洋行 ユビキタス協創広場 CANVAS
（3）募集人数： 30 名
（4）プログラム

1．未来の教室とユビキス共創広場 CANVAS ツアー
未来の教室「FutureClassRoomLabo®」など、最新のショールームとハイフレックス授業にも対応する「未来の学習空間」の見学及び最新のライブオフィス見学。

2．内田洋行の人事戦略の紹介（説明と意見交換）
会社紹介と社員教育プログラムを通じて、「情報の価値化と知の協創をデザインする企業」を目指して取り組でいる人材育成の考え方や仕組み、採用などの紹介と意見交換。

3．教育データ利活用に向けた取り組みの紹介（説明と意見交換）
GIGA スクール構想や最適な指導や支援を行う教育データ利活用に向けた取組みの先進事例を紹介。

4．若手社員との意見交換（大学での学びについて）
若手社員から業務内容、必要なスキル、ICT 企業の課題や実態、大学への要望などの発表と意見交換。

株式会社日立製作所

（1）開催日時：令和 7 年(2025 年)2 月 20 日(木) 10：00～12：00
（2）開催場所：日立大森ビル 6 階会議室
（3）募集人数：30 名
（4）プログラム

1．事業概要、人材育成の取組の紹介（説明と意見交換）
日立が展開する社会イノベーション事業を中心に、事業概要と事業の推進に向けた日立の人財に対する考え方を説明し意見交換。

2．イノベーションの核となる ICT 活用事例の紹介（説明と意見交換）
株式会社日立アカデミーより、LXP（ラーニング・エクスペリエンス・プラットフォーム）による ICT を活用した人財の育成に関する取組みを紹介し、大学に求める人財や教育環境について意見交換。

3．若手社員との意見交換 （大学での学びについて）
営業部門と SE 部門の入社 1～3 年目の若手社員から、担当業務内容・必要なスキル・業務上の課題や実態・大学時代に役だった経験や大学への要望などの発表と意見交換。

富士通 Japan 株式会社

（1）開催日時：令和 7 年(2025 年)3 月 4 日（火）13：00～15：00
（2）開催場所：Fujitsu Technology Park （富士通株式会社 本店）
（3）募集人数：30 名
（4）プログラム

1．事業戦略の紹介（説明と意見交換）
富士通 Japan の DX(デジタル・トランスフォーメーション)を強力に推進し、日本の持続的な成長を支える取組み及び富士通 Japan が考える大学 DX や最新の事例等を紹介し意見交換。

2．人材育成の取り組み（説明と意見交換）
富士通グループのジョブを起点とした採用に転換し、職種・ビジネス単位ごとに適した人材採用の紹介と学生が自身のキャリア志向や強みを認識し挑戦できるよう、インターンシップの拡大や社員との対話の場を提供している取組みについて紹介し、意見交換。

3．若手社員との意見交換（大学での学びについて）
若手社員から現在の仕事の内容や経験を踏まえ、大学時代に役立った授業や学ぶべきこと、大学に対して望みたいことなどについて発表し、意見交換。

５．実施結果

参加者アンケートでは、参加者の 92％が大学の授業現場で役立つ、86%が今回の研修を他の教員にも紹介したいと回答しており、以下のような意見が寄せられた。

（１）大学教育に求められる取組みについての意見

① ジョブ型人材マネジメントや最新の AI 技術の活用、人材戦略や経営戦略の施策を具体的に説明いただいたことは大変勉強になった。

② 若手社員の発表で、論理的思考力、自ら考える姿勢、挑戦する心といった普遍的な教育の重要性を再確認、授業改善の必要性を強く感じた。

③ 大学教育の DX 化や生成系 AI への対応、ジョブ型、通年の人材採用などに対応する大学の教育改善の必要性を強く感じた。

④ 専門知識と社会課題との関係を学生が具体的に考え、選択できる授業設計等を学内にフィードバックし教育改善を図ることが大事と感じた。

⑤ 最新の人材育成の仕組み、ジョブ型採用などは大変良かった。生きた題材として活用できると思うので活用して授業を改善していきたい。

⑥ 大学の学びと社会で求められる力を大学教育のどこに位置付けるか、企業の実態をもっと知り、教育改善していく必要があると思う。

⑦ 企業の人材育成の方針、求める人材像を理解し、大学での学びと齟齬が生じないようにカリキュラム等を再考する必要を感じた。

⑧ 企業でなにが求められるか、若手社員が意味や意義を語った内容は今後の学生指導と研究指導に大変参考になり、多くの教職員と共有したい。

⑨ 教員と学生との世代間格差を理解し、大学教育の DX や AI の導入など社会的な変化に対応した教育改善が必要なことを強く感じた。

⑩ 大学教育を「知識の伝達」から「学びのサポート」に変革する教員の意識改革、サポートする仕組みの必要性を強く感じた。

（２）研修全般についての意見。

① 若手社員から大学教育への要望を直接聞けたのが良かった。このような機会は他に無く、この研修が無くなることは残念です。

② 大学と企業をつなぐ貴重な情報収集の場として非常に良い機会を与えていただき感謝しています。

③ このような産学連携事業はとても重要で有意義だと思う。さらに企業を拡大し、継続して実施して欲しいのに最後と聞き残念です。

④ このような実際の企業の取組みと長期的な戦略のリンクが分かる情報収集の場は有難く教員としてできることがいくつか見つかった。

なお、詳細は、巻末の 2024 年度事業報告書の附属明細書【2－4】を参照されたい。

以上の取組みをもって、産学連携による教育支援の事業は終了した。